

小児科

医 長： 清水 順也、古城 真秀子

院 長： 久保 俊英

「概要と特徴」

岡山県の小児医療の中核病院であり、小児病棟として中国地方最大の 100 床を有し、小児内科では年間約 2,000 件の入院患者を受け入れています。一般小児科と新生児科の2部門より成り立っており、各々専門性を生かした高度医療を提供しています。一般小児科では、常勤医 8 名と数名のレジデントが診療と指導に当たり、24 時間救急体制を敷いて、年間約 7,000 名の救急患者に対応しています。一方各人が専門分野を持っており、内分泌・代謝、腎、神経、アレルギー、感染症、と高度専門医療も提供しています。

新生児医療については、新生児科(小児科のサブスペシャリティですが、当院では独立した診療科)が担当しています。周産期専門医(新生児)5 名を中心に診療・指導に当たります。岡山県の総合周産期母子医療センターに認定されており、超低出生体重児(20-30年)を中心とした早産児、重症新生児仮死、横隔膜ヘルニアのなどほぼ新生児疾患の管理を行うことができ、また祖父母・きょうだい面会を実施するなど最先端の医療を提供しています。Unicefからは赤ちゃんにやさしい病院先進国第 1 号に認定されています。

「初期研修の基本的方針」

- ・ 社会人・医療人としての基本的態度・良識を身につける。
- ・ 小児科及び小児科医の役割を理解し、小児医療を適切に行うために必要な基礎知識・技能・態度を習得する。
- ・ 小児の特性、診療の特性、小児期の疾患の特性について学ぶ。
- ・ 小児のプライマリーケアに携わる医師に最低限求められる小児診療のポイントについて理解し習得する。
- ・ 新生児の基本的な診察・対処の仕方を習得する。
- ・ 選択期においては、専門性の高い疾患についても学ぶ。

「研修(自己研鑽含む)予定表」

行 事	曜 日	時 間
小児科病棟医長回診	火曜日	午後
NICU 回診	毎日	
小児科カンファレンス	月・水・金	15:00～
小児科・新生児科・小児外科 合同カンファレンス、ミニレクチャー	木曜日	18:00～
抄読会(1 度はあたる)	木曜日	8:00～
救急初期治療トレーニング	火曜日	適宜
症例発表	研修期間中に	カンファレンス時
小児系レントゲンカンファレンス	月曜日隔週	7:45～
小児救急・集中治療勉強会	月曜日隔週	7:45～

「指導体制」

常勤医師と、レジデントあるいは専攻医とのチーム医療体制で指導にあたっています。初期研修医は、小児科病棟で指導医のもと入院患児の担当医として診療に従事し、また回診やカンファレンスを通じて担当外の患児についても診療に参加します。夜間・休日には、小児科当直医のもとで、救急医療も研修します。乳幼児健診・予防接種も経験します。

「経験可能な症例や手技」

- ・ 新生児～小児期のすべての疾患が診療対象ですが、初期研修では特に頻度の高い疾患、救急外来で見逃してはならない疾患を中心に研修します。
- ・ 病歴聴取、理学所見の取り方、鑑別診断、処置の実際(点滴・採血・導尿・腰椎穿刺など)、検査結果の解釈、鑑別診断、病態の理解、治療の実際、家族との関わり、などを小児科医としての視点から学びます。
- ・ 選択期においては、更に重症児(ICU管理)、内分泌代謝疾患、腎疾患、重症神経疾患、低出生体重児などの診療も担当します。
- ・ 時期があれば、レガッタ・病棟お楽しみ会・忘年会の出し物、なども経験可能です。
- ・ 毎年 semi open な岡山小児救急医療研修会を開催しており、他科ローテート中であっても参加できます。

「専門医研修(後期研修)について」

日本小児科学会より専門医研修支援施設に認定されており、岡山大学病院小児科専攻医プログラムの研修連携施設として、新専門医制度に基づいた専門医研修を受け入れています。当院で研修を受けられた小児科医、新生児科医が全国各地で活躍されています。詳しくは、下記にご連絡ください。

「研修責任者よりひとこと」

こども達の笑顔を守り、夢を支えるのが小児科医の仕事です。小児科医になりたい方もそうでない方も、小児科研修期間中は小児医療の魅力にどっぷりとつかってみてください。

研修希望時の連絡先

院長 久保 俊英
小児科医長 清水 順也

<http://okayamamc.jp/index.php> (小児科のページをご覧ください)

また、新生児科単独の研修を希望される場合は、診療部長 影山 操、医長 中村 信までご連絡ください。